

近代美術の至宝 ー明治・大正・昭和の巨匠ー



堂本印象《木華開耶媛》京都市立堂本印象美術館

- 立見榮男展 ー野に棲むあるじたちー
- 加賀藩の美術工芸 I
- 福者認定記念 高山右近
- 秋の優品選 I 【工芸】
- 石川の作家 現代編 【絵画・彫刻】



立見榮男《普賢童子》
ー立見榮男展よりー

眼の芸員学

本展覧会では、全国各地の美術館やご所蔵者さまから作品をお借りして展示いたします。出品作品を選ぼうと所蔵品目録を繰りますと、これだけモノの行き来が激しくなった現代でも、やはりそれぞれの地に根ざした芸術・文化のあることが見えてきます。伝統的な技法、あるいは師弟関係だけでなく、色彩感覚やモノの量感にまで、静かに受け継がれている水脈のようなものが感じられるのです。一方、東京美術学校の設立や、全国的な展覧会の開催により、若手作家たちが地方へと最先端の波を伝えていったのが、近代という時代でした。モダンな技術や理論に触れた若者たちが、再び故郷のわざや伝統を見つめ直した、エネルギー豊かな時代。全国から集まった至宝の数々を、どうぞじっくりお楽しみください。

明治維新、それは制度や風習、さらには日本人の美意識や価値観にいたるまで、広く深く、かつてない変革を我が国にもたらしました。それゆえ現在、

日本の美術を語るべき、明治維新以降、とりわけ「近代」と呼ぶ明治・大正・昭和期までをたどることは必要であり不可欠です。しかし、この「近代」は激動の時代であり、生まれた美術も実に多彩です。近代の美術を的確にとらえることは、なかなか容易ではありません。そこで、時代の旗手として美術界を牽引してきた代表的作家、というフィルターをおとして、近代美術の一断面を見てみたいと思います。本展は明治以降の各時代に活躍した「巨匠」と呼ばれる近代美術の巨人たちにスポットを当て、作家・作品から近代日本美術を再考しようとするものです。また工芸王国を自認する石川の特長にも視点を置きました。こちらは昭和から現代を主とし、わざと美の継承、そして発展を貫く各種工芸の名品をご覧ください。

本展では「絵画・彫刻」と「工芸」との二部構成とし、

明治・大正・昭和のそれぞれを代表する作家の名品
一六六点で近代日本美術のあゆみをたどります。

主な出品作家

〔日本画〕

竹内栖鳳、横山大観、上村松園、小林古徑、安田靉彦、堂本印象、伊東深水、東山魁夷、杉山寧、平山郁夫、加山又造 ほか

〔洋画〕

浅井忠、坂本繁二郎、小糸源太郎、梅原龍三郎、安井曾太郎、中川一政、林武、東郷青児、小磯良平、宮本三郎、脇田和、鴨居玲 ほか

〔彫塑〕

山崎朝雲、荻原守衛、建島大夢、朝倉文夫、高村光太郎、北村西望、淀井敏夫、佐藤忠良、舟越保武、富永直樹 ほか

〔工芸〕

板谷波山、富本憲吉、荒川豊蔵、浜田庄司、楠部弥式、六角紫水、高野松山、松田権六、音丸耕堂、木村雨山、芹沢銈介、香取秀真、鹿島一谷、帖佐美行、黒田辰秋、氷見晃堂、大野昭和齋、平田郷陽、藤田喬平、西出大三 ほか



舟越保武《萩原朔太郎》



東郷青児《日曜日朝》

前田育徳会尊經閣文庫分館

加賀藩の 美術工芸 I

9月1日(木)～10月10日(月・祝) 会期中無休

1F企画展示室

近代美術の至宝

9月10日(土)～10月23日(日) 会期中無休

本年度に、前田育徳会尊經閣文庫分館でこれまで開催した特集・特別陳列には、昨年の特別展「加賀前田家 百万石の名宝」の補足としての性格があります。特に、国宝・重要文化財の公開については、これまで石川県立美術館で展示されたことがないものという視点も重視しました。「加賀藩の美術工芸」は、ほぼ毎年掲げているテーマですが、今回は特にこのような視点から作品を選び、十月十四日からこの後期展と合わせて国宝一点、重文六点という、これまででない豪華な内容となっています。

このうち国宝は、平安時代十一世紀の《十卷本歌合》が展示されます。これは関白藤原頼通が主宰し源経信が監修した、日本最初の歌合証本を集成し

た事業の草稿本で、前田育徳会には五巻が所蔵されています。今回は、その中から巻二と巻八を前・後期に分けて展示します。また重文では、中国・隋時代の月ごとの年中行事を記した漢籍で、中国では失われ、日本の南北朝時代十四世紀の写本が唯一伝存する《玉燭宝典》や、中国最古の医書とされている《黄帝内経》の鎌倉時代の写本、そして平安時代後期に成立した漢文体の芸能の記である《新猿楽記》の写本のうち、今回は弘安本と古鈔本をいずれも前・後期に分けて展示します。

これらの書籍・典籍類に加えて、後期には重文の《扇面散詩絵手箱》(室町時代十五世紀)を、今回は修復を手掛けた松田権六の図面とともに展示します。

国宝《十卷本歌合 巻第二 天徳四年内裏歌合》(巻頭)

◆観覧料 (コレクション展示を含む)

個人	一般	大学生	高校生以下
八〇〇円	一、〇〇〇円	六〇〇円	無料
(二十名以上)	五〇〇円		

◆講演会

演題／近代美術の展開―絵画・彫刻を中心に―
講師／宝木範義氏(美術評論家)
日時／9月18日(日) 午後1時30分
演題／工芸の近代―作家の誕生と以降の創作表現
講師／山崎達文氏(金沢学院大学教授)
日時／10月2日(日) 午後1時30分
会場はいずれも美術館ホール(定員二〇九名)
《聴講無料》

◆展示室でスケッチGO! ※申込不要 当日受付
日時／10月10日(月・祝) 午後1時～3時

◆ギャラリートーク ※要観覧料・予約不要

担当学芸員が展覧会の見どころや出品作について解説を行います。
日時／9月11日(日)、18日(日)、25日(日)、10月2日(日)、9日(日)、16日(日)、23日(日)
各日午前11時～

◆映像ギャラリー ※聴講無料 予約不要

各日の内容は6ページの行事予定をご覧ください。
日時／9月19日(月・祝)、22日(木・祝)、10月10日(月・祝) 午後1時30分
会場／美術館ホール

◆0歳からのファミリー鑑賞講座

日時／10月16日(日)
①午前10時～ ②午後1時30分
講師／富田めぐみ氏
(赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会)
定員／30名 ※お電話でお申し込みください。



志村ふくみ《朝顔》

第5展示室

秋の優品選 I

9月1日(木)～10月10日(月・祝) 会期中無休

四季の景趣は工芸作品のモチーフとして古来より表わされ続けてきました。秋といえ、秋草、月見、稲穂、芦雁、紅葉など数え切れないほど多くの題材がありますが、今回の展示では、そういった景趣を表現した作品を選んでご覧いただきます。

初代山川孝次《金銀象嵌草花文鳥籠置物》は、繊細な毛彫りによって柔らかな羽毛まで表現された鶉が見どころですが、籠の下部には金、銀などの平象嵌で、薄萩、桔梗が施されています。色を抑えた秋草のなか、薄の葉と萩の花の一部に使われた金が目を引きまします。「鶉に秋草」の組み合わせは古くから絵画や工芸品に用いられており、本作もそれをふまえています。また鶉は、江戸時代、武家においてとくに愛玩され、金銀や螺鈿をちりばめた豪

華な籠に飼われていました。消えゆく江戸の情緒を感じさせる作品です。

二代松本佐吉《芦雁大皿》は、古九谷に做った作品です。緑彩で塗り込められた地には重ね菊が充填されており、波立つ水面を思わせます。古九谷《青手桜花散文平鉢》(当館蔵、県文)などに近い表現です。器面の上部には、鮮やかな紫で急降下する雁、そして下部に黄彩をもつて芦が添えられています。雁の姿態は古九谷《色絵芦雁宝尺文稜花皿》(加賀市美術館蔵)のそれに近いですが、首の向きが変更され、思い切ったクローズアップが行われています。古作に学びながらも、瞬間を捉えた躍動感のある題材選択や、器の外を意識させる構図には、作者の創意が感じられます。



二代松本佐吉《芦雁図大皿》

第2展示室

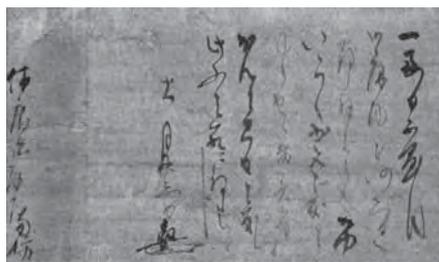
福者認定記念 高山右近

9月1日(木)～10月10日(月・祝) 会期中無休

高山右近(一五五二年～一六一五年)は織田信長、豊臣秀吉に仕え、武将としての傑出した能力は秀吉をはじめ諸将から高く評価されました。また千利休の高弟として茶人としても活躍し、同時にキリスト教布教にも尽力しました。一五八七年、秀吉の伴天連追放令により棄教を拒否したことで領地を没収され、追放の身となりましたが、翌年加賀藩祖・前田利家により金沢に迎えられる。以後、一六一四年の江戸幕府のキリシタン禁令により国外追放となるまでの二十六年間を金沢で過ごし、重臣として政務にあたり、ともに利休高弟として茶の湯を広め、また布教活動も続けました。

本展は、高山右近がカトリック教会の崇敬対象

である「福者」に認定されたことを記念して、右近の自筆書状やゆかりの作品、石川県に伝えられたキリシタン遺品や南蛮美術、茶道美術、そして当時の世界情勢に関する資料の展示を通して、改めて金沢時代の右近の足跡と時代背景に焦点をあてるものです。当館は昨年右近没後四〇〇年を記念して、特別展「高山右近とその時代」を開催し好評をいただきました。今回の特別陳列は、規模は小さいものですが少し視点を変えて、特別展に出品されなかった作品として初代長次郎作《名物 黒楽茶碗 銘北野》や、幕府によるポルトガル船来港禁止令以降のイエズス会宣教師の動向を伝える書簡や報告書(前田育徳会蔵)、県文《南蛮渡来図》(本泉寺蔵)などを展示します。



金沢市文 高山右近書状 休庵公宛

立見榮男展 一野に棲むあるじたち一

主催／石川県立美術館 後援／北國新聞社・テレビ金沢・北陸放送

9月1日(木)～10月10日(月・祝) 会期中無休

学芸員の眼

立見氏の作品の多くは二対一の長方形に描かれています。これは氏にとってこだわりの形なのです。古くから日本間の畳や襖の比率は長辺二に対し短辺一となっていています。近年畳のある部屋は少なくなってきましたが、まだまだ二対一の比率でできる長方形は日本人にとって馴染み深い形といえるでしょう。この形の中をさらに分割して立見氏は作品を構成していきます。河童や童子、風神、雷神、鯰、犬、猫、羊、古九谷の大皿など、立見氏が作り上げた図像あるいはキャラクターを様々に配列し、物語は展開していきます。あたかも長大な絵巻を見るかのように。当館所蔵の《雷神》は中央に正方形、左右に比率二対一の長方形で画面を区切り、以前に描いたキャラクターたちが散りばめられています。会場で関連ある作品を探すのも楽しいのではないのでしょうか。

ビュートと風が吹いて草や花が揺らぎ、犬が走り獣が草陰からじっと窺っています。野中にある沼なのでしょうか、鯰が潜み、真つ白な河童が哲学者然と座して、万物の流転に思いを巡らせています。あるいは周囲に描かれたものすべては、河童の脳裏に去来する来し方の出来事なのでしょうか。いやいや、河童自体が架空の存在なのです。だから鯰が陸地を泳ごうが、風神・雷神が空に浮かぼうが一向に構わないのです。これが立見氏の描く世界です。

立見氏は昭和一五年東京都生まれ。戦禍を避け三歳の時に現在の加賀市山中温泉上野町に疎開し、その後金沢に移り、小中高時代は金沢で暮らしました。現在は二紀会を代表する画家の一人として、九谷焼の五彩を思わせる重厚かつカラフルな色彩で、河童や風神、雷神をテーマに夢幻の世界を描き続けています。ことに、氏にとつて「河童」は自由な創造上の「野に棲むあるじ」で

あり、瞑想好きで賢く神秘の存在として、また自己の分身、つまり自画像としても描き続けるテーマです。

本展は、洋画家・二紀会常務理事として活躍する立見榮男氏の初期作品から二紀展出品の最近作まで、大作を中心に七〇余点で創作の歩みをご覧いただけます。立見氏の不可思議な世界をぜひご堪能ください。

◆関連イベント

講演会「野に棲むあるじたちと私」

講師／立見榮男氏(洋画家)

日時／9月17日(土) 午後3時～4時

会場／美術館ホール

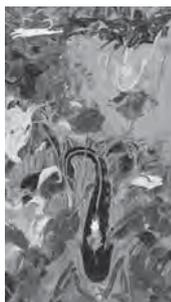
《聴講無料・先着順》

アーティスト・トーク

日時／9月17日(土) 午後2時～2時45分

10月9日(日) 午後2時～3時

展覧会場にて立見氏が自作について語ります。



《雷神 野に立つ見ゆ》
1988年
茨城県近代美術館



《風神誕生》1985年
水戸市立博物館



《河童・念力》1979年
信州新町美術館



《雷神》2006年 石川県立美術館

第7展示室

第26回

北國水墨画展

9月2日(金)~6日(火) 会期中無休

第3・6展示室

石川の作家 現代編

9月1日(木)~10月10日(月・祝) 会期中無休

日本画部門からは古澤洋子《未来の化石》を紹介
します。古澤は深遠、不変なテーマを、遊び心豊富な
「見立て」とおして表現しています。例えばそれは
街並みを船に、地層を波に見立てたり、石橋と古い
街並みを機関車に見立てたり、という具合です。本
作はそういった作例の初期にあたるものです。題
名の通り、アンモナイトの化石のように渦を巻い
た街並み。人間の営みと悠久の時間を化石に「見立
てた」作品は遊び心にあふれています。

洋画部門の展示は、石川の中堅画家を主に紹介
します。作家は、田井淳、西田洋一郎、西房浩二、西
田伸一、開光市、前田昌彦、本山二郎などです。傾向
としては二つに分かれます。具象ではあるけれど
克明な写生ではない、つまり見たものを咀嚼し
造形し直して描く画家、もうひとつは、見たものを

石川県内の水墨画愛好家団体を網羅した統一展
です。近年愛好者の増加と作品の向上が著しい県
水墨画界の結束を図るとともに、愛好者拡大を目
指すねらいの展覧会で、作品は広く愛好者から公
募して審査します。入選、入賞作に委嘱作品も併せ
て展示し、水墨画の魅力を伝えるものです。

入場料／一般・大高生：五〇〇円(四〇〇円)

()内は前売料金 中学生以下無料

※当館友の会会員は、会員証提示により前売料金

連絡先／金沢市南町二番二号

北國新聞社事務局内

「第二十六回 北國水墨画展」事務局

電話：〇七六―二六〇―三二五八

忠実に再現し、しかも作家の内面世界を加味する画
家たち。田井、西田(洋)、開、前田は前者に、西田(伸)、
西房、本山は後者にあたります。本県の中堅層の厚
さがうかがえる作品群です。

彫刻部門からは、《SLIDE No.5》山下晴子作
と《黒い木》清水良治作を紹介します。戦後の彫刻
では、素材性と空間が制作のトレンドテーマの一
つで、また「穴・空虚(負の空間)」にも関心が集まり
ました。前者は大理石のリングをスライスさせた
理知的なフォルムで、素材の美と相俟ってシャ
ープな印象を示しています。後者は縦に長く引き延
ばした瘦身女性立像です。えぐった地山に乗る足
許からは不安定感が漂い、粗いタッチにブロンズ
の重い質感が相俟って現代の不安な心情と緊張を
想起させています。

行事予定

■ 映像ギャラリー	午後1時30分	美術館ホール	聴講無料
9月19日(月・祝)	「西洋画との出会いと模索」 「飾りなき漆の美 増村益城」	(24分) (30分)	
22日(木・祝)	「日本の巨匠シリーズ」 西山英雄・牛島憲之・富永直樹・帖佐美行	(各15分)	
10月10日(月・祝)	「日本画の伝統と変革」 「糸の音色を求めて 志村ふくみの世界」	(25分) (40分)	
■ 百万石の文化講座	午後1時30分	美術館ホール	聴講無料
9月25日(日)	「加賀前田家と文化財保護」 講師／菊池浩幸氏(公財)前田育徳会文庫員		



山下晴子《SLIDE No.5》

平成28年度後半の土曜講座

本年度全三十三回予定の土曜講座の内、後半の十月一日からの予定をあげています。今年の土曜講座は、「企画展や特別陳列・特集展示などの展示に係る講座」また、「館蔵コレクションに係る講座」をテーマにしたものを中心に行っています。当館展示と作品のご鑑賞を楽しみながら深めて行くのにお役立ていただければ幸いです。

申込不要・聴講無料です。どうぞお気軽にご参加ください。

No.	月日	内容	担当学芸員
第17回	10月1日	加賀藩の美術工芸	高嶋 清栄
第18回	10月8日	近代洋画の探求	二木伸一郎
第19回	10月15日	近代工芸の名作	西田 孝司
第20回	11月5日	石川の文化財 3	谷口 出
第21回	11月12日	松田権六の師・六角紫水	有賀 茜
第22回	11月26日	石川の文化財 4	谷口 出
第23回	12月10日	油絵の絵肌―日本的油彩の展開	二木伸一郎
第24回	12月17日	石川の文化財 5	谷口 出
第25回	1月14日	企画展「絵画にみる江戸のくらし」 見どころ	村上 尚子
第26回	1月21日	千利休の茶	高嶋 清栄
第27回	1月28日	新出の「金沢士庶遊楽図屏風」について	中澤菜見子
第28回	2月4日	浮世絵鑑賞入門	村上 尚子
第29回	2月11日	江戸時代の展覧会	有賀 茜
第30回	2月18日	石川の木彫	北澤 寛
第31回	2月25日	日本工芸の源流 ―正倉院玉物②―	西田 孝司
第32回	3月4日	前田家の天神信仰と能(来殿)	村上 尚子
第33回	3月11日	日本画にみる裸婦	前多 武志

友の会文化財現地見学予告

石川県立美術館友の会では、毎年秋に一泊二日の日程で、学芸員と行く「文化財現地見学ツアー」を企画しています。第四十七回の今秋は、「神々を祀る―お伊勢さんへの道―(仮)」と題し、以下のような行程を予定しています。

開催日時／10月22日(土) 午前7時頃 金沢駅発

10月23日(日) 午後7時頃 金沢駅着

訪問場所／高田本山専修寺、齋宮歴史博物館、賓日館、朝熊山金剛證寺、

伊勢神宮内宮・外宮

移動方法／貸切バス

具体的な旅程やお申し込み方法等については、来月の美術館だよりでお知らせいたします。平常は見ることの難しい施設もご案内いただく予定です。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。



ミュージアムレポート 学校出前講座

学校の体育館等に作品を持ち込み学芸員が鑑賞授業を行う、学校出前講座の本年度開催校の九校が決まり、六月から開講しています。六月二十二日開催のかほく市立内灘中学校ハマナス分校では、小学二年生から中学三年生までの十三名の児童・生徒が作品を鑑賞しました。作品について意見を出し合う場では控えめな様子でしたが、事後学習の作品についての感想を書く時間には、どの子も集中して一気に書き上げ、子どもたちにとって心動かされた講座だったという言葉が聞かれました。また、二十九日には白山市立蝶屋小学校では、五・六年生四クラスを対象に開講しました。校長先生自ら、前日に子どもたちへの事前学習を行い、当日は授業内でも意欲的に発言し、作品鑑賞を満喫してくれました。



金銀象嵌唐草文香炉 きんぎんぞうがからくさもんこうろ
 明治43年頃(1910) 口径7.1×胴径10.5×高さ10.0cm

山尾次吉 やまお・じきち
 文久2年~大正12年(1862~1923)



本作品の文様には、法隆寺の国宝《四騎獅子狩文錦》が引用されています。作者の山尾次吉が当時、実物を見ることができたとは考えにくいですが、書物等で目にしたのでしょう。文様の馬の後脚部に「山」「吉」の字があるため、自分の名前との連想で取り上げたのかもしれませんが。

香炉の本体は赤銅打ち出しで、驚くほど薄く、軽く仕上げられています。赤銅とは、銅に金が3~5%ほど含まれた合金です。もともとの色は純銅とほとんど変わらない赤桃色ですが、煮込み法という技法によって、表面が黒紫色になります。烏金などとも呼ばれています。煮込み法とは、微量な緑青や硫酸銅などを溶かし込んだ水溶液を銅鍋で煮立て、その中に銅器をつけ込むことによって、金属の表面に着色をする技法です。日本で独自に発達しました。絵の具による着色によらず、素材そのものの色を活かすという点で、金属のよさを余すところなく発揮させることのできる着色技法だといえるでしょう。

胴部には金、銀、素銅の象嵌で唐草文を配します。黒、金、赤の色彩の対比や、火屋に施された精巧な透彫は、格調高い美しさを有しています。

次回の展覧会

会期:
 10月14日(金)~11月15日(火)

前田育徳会 尊経閣文庫分館		第2展示室		ご利用案内 コレクション展観覧料 一般 360円(290円) 大学生 290円(230円) 高校生以下 無料 ※()内は団体料金 毎月第1月曜日はコレクション 展示室無料の日(9月は5日) 今月の開館時間 午前9:30~午後6:00 カフェ営業時間 午前10:00~午後7:00 年中無休 9月の休館日はありません。
加賀藩の 美術工芸Ⅱ		石川の文化財		
第3・6展示室	第4展示室	第5展示室	1F企画展示室	
優品選 —守・破・離—	長谷川大治郎・ 梶本良衛 木彫二人展	秋の優品選Ⅱ	第63回 日本伝統工芸展金沢展 10月28日(金)~ 11月6日(日)	

ガン保険

チューリッヒ生命「終身ガン治療保険プレミアム」

通院治療が増加している時代の、
画期的なガン保険

既にガン保険にご加入されている方に

●主契約:放射線治療給付金、抗がん剤・ホルモン剤治療給付金(給付月額20万円)

●保険期間・保険料払込期間:終身

月払保険料 **1,500円** (35歳男性) / **1,500円** (43歳女性)

追加のご加入で、ガンの通院治療の保障を充実

●主契約:放射線治療給付金、抗がん剤・ホルモン剤治療給付金(給付月額20万円)

●特約:ガン先進医療給付金、ガン先進医療支援給付金(一括15万円)、ガン診断給付金(一括50万円)、悪性新生物保険料払込免除

●保険期間・保険料払込期間:終身

月払保険料 **3,216円** (40歳男性)

今、ガン保険にご加入されている方も、
ご加入されていない方も今すぐチェック!

0037-6001-60140

※一部の固定電話から繋がらない場合がございます。ZURICH
 恐れ入りますが携帯電話等でおかけください。

ZURICH 株式会社ニートン・フィナンシャル・コンサルティング
 〒160-0022 東京都新宿区新宿5-17-18

※記載の保険料は2015年6月現在のものです。※この欄は商品の概要を説明しています。商品の詳細については、パンフレット、ご契約に関する注意事項(契約概要、注意喚起情報)等をご確認ください。

石川県立美術館だより
 第395号(毎月発行)
 2016年9月1日発行
 〒920-0963
 金沢市出羽町2番1号
 Tel:076(231)7580
 Fax:076(224)9550
 URL: <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>